

# 自然配植技術協会ニュースレター

2004.11.22 NO.5

---

自然配植技術協会 〒603-8145 京都市北区小山堀池町 28-5  
tel/fax 075-254-6014 E-mail : shizenhaisyoku@pep.ne.jp  
URL <http://www.shizenhaisyoku.org>

## 1.造園業界と自然配植

自然配植技術協会会長 高田 研一 . . . . . P.2

## 2.京都の庭創りから ~今昔物語~

自然配植技術協会会員  
植彌加藤造園(株)加藤友規 . . . . . P.4

## 3.北上市展勝地の老木となった桜並木の再生

自然配植技術協会会員  
グローバルグリーンクニタダ(株) 国忠征美 . . . . . P.6

## 4.自然配植緑化経過報告

自然配植技術協会会員  
緑化保全(株)田畑了 . . . . . P.8

## 5.事務局からのお知らせ . . . . . P.9

- 巻頭によせて -

# 造園業界と自然配植

自然配植技術協会会長 高田研一

## 1. 日本庭園の技術のために

先日、日本造園組合の若手リーダーの方々  
と懇談する機会を持った。時間はやや不足し  
たものの自然配植の話をかいつまんで一通り  
させていただいた。どの方も初めての話で、  
かつこれまで聞いたことのない造園技術の根  
幹に触れることばかりだというので、驚かれ  
ていたように思う。

狭い庭で、木を植えることで作り出される  
緊張をもった空間の美は、木をそれぞれの樹  
姿を生かした寄せ植えで組み合わせる中で実  
現できる。このためには、樹木のもつ特性と  
しての樹形、生長の知識を基礎とすることが  
求められる。樹形を自形性、他形性という見  
方で整理し、樹木が他者との競争の中で空間  
をどのように占めていくかを考えることは自  
然配植の大きなテーマの一つである。

また、伝統的な日本の庭が「松や苔の景色」  
で作られてきたことは、そこで松や苔を守る  
ための微生物管理の重要性が古くから知られ  
てきたことが伺える。微生物管理とは、日本  
庭園の場合、「築山」という起伏ある地形を作  
り出すこと、毎日の落ち葉の掃き掃除を徹底  
し、あるいは手加減すること、また水遣りの  
工夫といった、養分や水分のストレスを人為  
的にコントロールすることによってもたらさ  
れる。

このような伝統的な庭園管理は、経験的に伝  
えられてきたが、自然配植では自然植生にお  
ける樹木の生育場所の知見や近年の微生物学

の成果を取り込みながら、理論化を進め、土  
へのストレスとこれに応じて発達する微生物  
相の違いが、従来の土壌学の理解を超えて、  
一方向への土壌発達ではなく、大きくは二方  
向、つまりバクテリアが優先するのか、ある  
いは外生菌根などの糸状菌が優先する方向に  
向かうのかという、合成型 発酵型、合成型  
浄菌型という見方を示してきた。

こういった自然配植による日本の造園技術  
の理論化作業は、さまざまな地域、場所での  
造園技術の普及や、造園資材の選択について  
新しい可能性を示してきたといえるのではな  
いか。

## 2．造園業界の構造的問題と次世代へ

造園は十分な社会的原資が発生する場所であれば、どこにでも存在する、いわば、ゆとりある暮らしの必需品ともいえる。したがって、たとえ社会全体が窮乏しても、一部富裕層のニーズは絶えることがないため、少なくともセンスと技術を兼ね備えた庭師は食うに困ることが決してないに違いない。

しかしながら、庭師が支える造園の世界はわが国の緑づくり全体のほんの一部にすぎない。造園業界の大方は、技術を要する作庭や庭管理だけを行ってきたのではなく、むしろ高度な技術を必要としない公共緑化や街路樹の剪定、草刈りを担ってきており、そのパイ（食い扶持）の大きさゆえに、公共緑化の技術基準に適合した収益体質への脱皮を終えているのが現状である。

かつて、また一部では現在も伝統的な作庭を行う庭師が受け取る作庭報酬は、旦那（＝発注者）との信頼関係の下で、「言い値」で行われてきたそうである。現状では、資材費、人件費の細かな仕分けの下で、明確な積算によって価格が決定される。こうでなければ、だれも支出について納得しないのが現代である。しかし、この仕組みの中で、大きな問題点は、目に見えにくいものの価格、測りづらいものの価格が不当に安く設定されがちなことである。

公定価格で決められる労賃は企業が当人に支出する実質労賃よりも安く設定されることが多いのはよく知られているが、さらには施工者が担う図面作成費などの技術経費が最初からサービス労働として無償となる場合が多いのは驚くべきことである。当然のことながら、仕事を請け負う造園企業は採算を確保す

るため、材料の質を落として利ざやを稼ごうとする。

材料の質を落とせば、影響を受けるのは、品質である。品質とは緑化の場合、これによって生み出される「名所の緑」といった付加価値であるとか、長期的に見たときの緑の価値であって、費用対効果からみて、決して望ましいことではない。

技術や人を大事にしないシステムがまかり通ることをあきらめるのか、それとも変えていくのか。変えていくとすれば、変えるべきものを選択する価値観と変わっていくための必然的なストーリーの準備をしなければならない（現在、筆者は国交省近畿整備局で、次世代の緑化システム醸成のための評価軸確立や公共緑化における伝統技術再生のためのケーススタディを行っている）。

地域性苗木と呼ばれる地域遺伝子資源に配慮した苗木の生産供給体制整備については、最初に発言を筆者が始めて20年を経過して、ようやくその道筋がおぼろげに浮かんできた。しかし、造園や緑化の分野の構造的な問題である非平準化技術（どこでもだれでもできる技術を平準化技術という）の軽視は、全産業分野、医学などにも及んでおり、文明論的対立を含んでいるゆえに、それよりもまだまだ時間がかかるかもしれない。それでも人と技術の基盤を準備しておくことは、必ず必要となる次の時代を乗り切る知恵となるに違いない。

# 京都の庭創りから ~ 今昔物語 ~

自然配植技術協会 会員

植彌加藤造園株式会社 代表取締役副社長 加藤 友規

庭を創り 育てていくことは、本当に楽しい仕事ですね。私は幼少の頃から、楽しそうに仕事に取り組む祖父と親父の背中を見つめてきました。瞳を輝かせながら楽しそうに御施主様と語りつき親父の姿がまぶたに浮かびます。庭を創ること、それは造園家にとってこの世で一番楽しいことなのです。そんな楽しいことを一杯してきた祖父や親父が過ごした昔の時代と、私の過ごす現代と将来のことなど、少しお話ししたいと思います。

## (1) 昔の話 (祖父の時代、親父の時代)

私は昭和41年生まれの現在38才、親父は昨年67才でこの世を去りました。

親父の遺品の中には興味深いものが幾つかあります。例えば、昭和30~40年代当時の当社の業務日報です。仕事内容は“作庭”、毎日毎日来る日も来る日も庭創りが続きます。今の若者達が単純な刈り込み作業や除草作業に追われているのとは対照的です。古き良き時代モノ(材料)の価値だけではなく、ヒトの価値が高く評価されていた時代といえます。多くの御施主様が造園家のもつ心・技・体を深く理解し評価してくれた時代です。だからこそ、その付加価値を高く評価された造園家は、更なる自己啓発に努め、心を高め技術を伸ばしたわけです。そんな付加価値を評価してくださる“大旦那様”的な御施主様も、今では少なくなりましたね。

祖父から聞いたこんなエピソードがあります。南禅寺界隈で仕事をさせて頂いていた祖父が作庭にあたり、某“大旦那様”に工事費の見積書を提出したところ、ひどく叱られたそうです。大旦那

様曰わく、値段が安すぎる！わしの庭がこんなに安いとは失礼じゃないかね！りっぱな庭にしてくれないと当家の沽券に関わる。あんたの仕事ぶりに惚れたのだから、庭師として最高の技術を発揮してくれ。見積書は書き直してくれよ。」とのこと。祖父は報恩感謝の想いで、精一杯仕事をさせて頂きました。無事竣工、大旦那様も大変喜ばれたそうです。古き良き時代のことです。



平成16年現在の南禅寺小方丈庭園

戦後、造園業を取り巻く社会情勢は大きく変化しました。私達京都の造園業者もいつのまにか、その組織形態が“店”から“会社”になりました。公園緑地行政の施策に追随して、単純労務作業的な造園でも一定の社会的評価を得て、会社として利益を享受できる構造になりました。心・技・体が評価された「ヒト」的価値ではなく、材料の流通マ - ジンに代表される「モノ」的価値が会社の利益の中核を占めるようになったのです。残念なことですね。造園家は本来、御施主様との直接のふれあいの中で育てられたものなのに…。

## (2) 今と将来の話

自然配植の技術は、治山、土木、造林、都市緑化などあらゆる緑づくりの分野を対象に整理発展してきていますが、こと「庭園」という分野に関しては、理論は別としてその技術は元来、伝統的に庭師が備えていた技術の一部だと思います。祖父や親父、当時の優れた番頭さんたちの仕事ぶりはまさに自然配植の感性を備えた庭職人でした。彼らが理論的に文章表現していないだけで、その技術があったことは確かです。それと比較して、今の私達若手技術者のレベルはどうでしょうか？宇宙工学の分野では、スペースシャトルが宇宙を飛んでいます。情報処理の分野では、パソコン、携帯電話等の普及で仕事の処理速度は飛躍的に進歩しました。工学系技術は進化発展しているのに対して伝統技術である庭園の分野は、(一部の才能豊かな技術者を除いて)全般的に進化どころか大いに衰退しているのが現実です。そして若手技術者にとって、衰退している単純かつ最大のいいわけは、“作庭の機会がないこと”です。今の若手技術者は、昔の職人のように庭に携わっていないことをその未熟さのいいわけにしています。しかも自然を体感せずに物質的豊かさの中で育てている者が多く、根本的に自然が理解できていないで、職人として“無理やりたたき上げられている”感じの若手が増えました。さて、これから将来、造園の技術、とりわけ「庭園」の技術はどうしたものでしょうか？



### \* いいわけはしない、させない、熱心で優秀な若手には庭を創る機会を提供してやること

もちろん、熱心で優秀な若手技術者もいます。私はいつも、彼らにいい仕事の機会を与えてやりたいと思います。私は一人の技術者であると同時に経営者でもあるわけで、自分一人が技術者として成長したとしても成功とはいえません。まずは一番身近な職場から、共に成長してくれる多くの若手技術者を育成していくことが先決です。そして、彼らが様々な実践現場で活躍し、造園業界の質的技術向上のお役に立てることが私の使命と感じております。

### \* 優秀な会社や技術者がきちんと評価される評価軸を整え社会的に反映させること

技術者を評価する仕組みが再構築されたらいいですね。現在、公共造園工事では1級造園施工管理技士が技術者としての現場への参加資格みたいなものですが、当然、この資格だけでは不十分です。自然配植技術協会の提唱する理論や技術、経験を盛り込んだ資格制度が整備されることを期待します。

会社を評価する仕組みも同様です。官公庁の現行の経営事項審査では、会社のもつ技術力の評価が造園施工管理技士資格者の人数のみでほぼ定まってしまう。造園施工管理技士試験は、実務的現場経験が無くても、一時の暗記詰め込み型の試験勉強で合格する方も多いようで、極めて形式的な技術評価といえます。

私の生まれた昭和41年、南禅寺小方丈庭園にょしんてい「如心庭」を作庭する祖父たち。当時の南禅寺管長猗下である柴山全慶しばやまぜんけい老師の想いを庭に表現したとのこと

自然配植技術等に裏付けられたその技術者のもつ固有の感性、知識、経験などが評価される仕組みであってほしいものです。

かつて祖父や親父はその勤勉で熱心なキャラクターで、御施主様から信頼され、多くの注文を頂いてきました。

公園緑地行政のみに頼ることなく質の高い庭仕事を続けられたのは、本人はもちろん、御施主様からも世間からも喜ばれる「三方良し」の関係で仕事ができていたからだと思います。

幸運なことに、今私の周辺には多くの有望な若者達がいいます。彼らが仕事を通じて物心両面で幸せな人生が歩んでいけるよう、明るい希望に満ちた造園界でありたいものです。これからの時代、造園の技術力が付加価値の高い仕事として社会的に評価され、その仕事に携わるひと会社は「三方良し」の適正利益を享受でき、慢心することなく更なる技術力の向上に努めていく、そんな社会構造をもった造園界、若者の憧れる造園界でありたいと切に願います。

## 北上市展勝地の老木となった桜並木の再生

自然配植技術協会 会員

グローバルグリーンクニタダ株式会社 國忠 征美

岩手県北上市には、植栽後80余年経過したソメイヨシガがある。これを平成10年より樹勢回復の為、北上へ伺っている。この桜は大正10年、故三好學博士の指導のもとに、この地の故澤藤幸治氏の和賀展勝会によって北上川湖畔の遊水地の川沿いに約2kmにわたり植栽されているものである。

日本の桜百選にも選ばれ、有名な桜の名所である。しかし、小生が当地へ招かれた時には老木で活力がなく、老体を横たえた様な状態であった。この桜は本来民意での桜並木で、現在の公共事業でのものではない為、北上市民の桜への想いは一層なものである。

### 1. 再生にあたって

樹勢は弱り、幹部はコスカシバの被害後腐朽が進み、枝は伸び放題、テングス病は多く、病害虫の宝庫であった。桜は本来、土壌の排水、枝



間の通気、そして日照量が多い、この3条件を満たさないと本来の生育に障害が出る。

この中で枝間の通気が悪く、枯枝、テングス病が

多く見られ開花後の発達障害となっているので、テングス病枝、枯枝、本来の樹形を乱す立枝、逆枝、下垂枝等の船底を5月下旬～6月に行った。

これにより、地元市民、桜を守る会等より強い意見があった。又、文芸春秋社発行 手塚昌人著

「桜を救え」等でも書かれている。昔より「桜切るバカ 梅切らぬバカ」と言われているが、秋より冬にかけて切った場合、切り口部分の保護を充分に行っても休眠期でありカサの形成は難しく、ひび割れができ、腐朽菌の侵入がある。しかし、活性期の春から切り口部分の保護を充分に行えばカサの発達も良くひび割れもなく5～6月が適期で、その後の伸長枝には花芽が着く。

結果として、翌年には昨年同様の花が開いた。当然、施肥は有機質肥料を主とし、化学肥料の施用も行った。そして土壌改良として、エアレーションも行った。これは数年に1度の洪水で根元が冠水し土壌と多くの天然供給の肥料及びミネラルを運んでくるが、水圧と細かい土壌で目詰まりを起こし、根系伸長の障害となるためである。

幹の腐朽部分は殺菌、殺虫剤を注入し、開口部は生きた部分の形成層部分まで切り、その外にビートモスに殺菌、殺虫剤、発根促進ホルモン剤を含浸させ詰め込み、その上をポリフィルム、幹巻テープ、スギ皮テープで保護する。それにより、形成層の部分より発根し地上部に達し、根が幹の代替となっていく。これにより根量増し、根系の発達促進となる。



天寿を全うした木を、故熊谷明彦先生は伐採後、抜根し有機質の漢方薬を施用し植栽した場合、忌地現象も起こさず元気に生育している。

## 2. 今後の課題

この周辺、陣ヶ丘、国見山、男山にはソメイヨシノと同様に小金井のサクラが植えられている。この種は、現在小金井では無くなった品種が多くあり、今後はこの種の同定と増殖し保存の必要もあるだろう。又、ソメイヨシノの桜並木が今日まで生き延びたのは道路舗装を行わなかったことと、水辺での土壌水分が一定で数年に一度の灌水による天然供給養分が大きいものと思われるが、道路の舗装をしないことと土壌のエアレーションは毎年必要であろう。植栽間隔も、故三好博士は4～5間(約8～10m)となっているが、その後補植がなされ、補植された樹々が殺し合いを行い、補植された樹は良い生育をしていないので、相談の上伐採も必要となるであろう。



展勝地...岩手県北上市に位置し、北上市を代表する観光地。東北有数のサクラとツツジの名所として知られている。北上川の下流に沿って桜並木が続き、園内には1万本のサクラと10万本のツツジが植えられており、全国桜の名所100選にも選ばれている。

# 自然配植緑化経過報告

自然配植技術協会会員  
緑化保全株式会社 田畑了

平成 9年 3月、私が入社して初めて計画・施工した自然配植緑化 (当時 樹林パッチ 工法) の経過報告を致します。

## 工事概要

工事名：県単崩落決壊防止工事

発注者：岐阜県可茂建設事務所

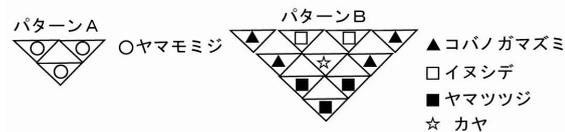
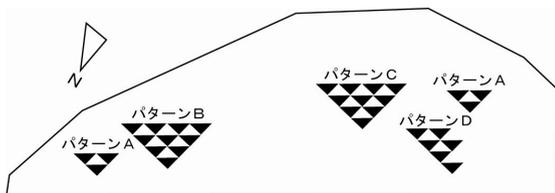
元 請：王子木材緑化株式会社

配植図 A = 約200m<sup>2</sup> 切土法面 レキ質基盤

工事箇所：岐阜県加茂郡白川町遠ヶ根峠

工 期：平成 9年 3月

植栽下請：緑化保全株式会社



( 7年 6ヶ月後 全景

## 設計意図

レキ質基盤を好む、ヤマモミジや、切土の硬い土層に根をはる、クリ コナラ イヌシデを配植し、下層部は、景観を考慮してヤマツツジを配した。

## 生育状況

土壌改良材に下水汚泥コンポストを使用し、発酵型土壌の作り方をしたため、反対に浄菌型土壌を好むヤマツツジにとって土壌が合わず、ほとんどが枯死してしまったが、他の樹種は順調に生育している。

樹木が生育したことで自然淘汰が始まり、単植した3本の内1本は生育が劣っているものが見られた。

周辺には、植栽したヤマモミジの種から発芽したと思われる稚樹もみられた。

エコプランター 32基 (プランター 内に苗木を3本単植) 植栽樹種 (苗木) 96本 :ヤマモミジ 18本、クリ12本、コナラ9本、カヤ9本、イヌシデ6本、ヤマツツジ 21本、コバノガマズミ12本、ガマズミ9本



植栽完了時  
厚層基材吹付工と併用。プランター設置箇所は、樹木の根を傷めない様にラス金網を切断している。

## 事務局からのお知らせ

### ・会員の取り組み

先に行われた総会時、会員の濱田さんより「土砂採取場岩盤跡地の森林再生、緑化の取り組みについての事例報告」をご提供していただきました。総会にご参加頂いた方には配布させていただきましたが、事務局のほうにまだ少し残部がございます。今回総会にご参加されなかった方で資料を希望される方は事務局までご連絡下さい。会員の方には1人1部でお送りしていません(無料)。

### ・第4回定時総会、安房峠見学会のご報告

7月9日、10日の2日間、自然配植技術協会第4回定時総会と安房峠見学会が岐阜県の平湯温泉で開催されました。今回は1日目に総会、2日目に見学会を行うという初めての取り組みでした。見学会につきましては、安房峠緑化事業に深く関わり、昨年未逝去された門義雄理事に感謝するとともに、施工後10~20年経過した様子を、解説を交えながら見学していただくという趣旨で開催されました。遠方からお越しくださった皆様、誠にありがとうございました。



安房峠 見学会の様子

### ・支部化名簿(案)完成のお知らせ

総会の際に取り上げられた、協会の全国支部化ですが、その区分案と支部化名簿が完成いたしました。

- ・九州支部(福岡、長崎)...4会員(団体2会員、個人2会員)
  - ・中・四国支部(岡山、広島、高知、香川、愛媛、徳島)...9会員(団体5会員、個人4会員)
  - ・近畿支部(大阪、京都、滋賀、兵庫、和歌山)...41会員(団体16会員、個人25会員)
  - ・中部支部(愛知、岐阜、静岡、長野、三重)...50会員(団体17会員、個人33会員)
  - ・関東支部(東京、神奈川、山梨、埼玉、千葉、栃木)...27会員(団体9会員、個人18会員)
- 計 141 会員 (団体 56 会員、個人 85 会員)  
まだブロック分けが終わった段階ですが、今後支部化名簿を元に組織の構成や予算について各支部の代表者や理事会と決定していきたいと考えております。また、近いうちに皆様のお手元に名簿の確定版をお届けする予定です。自然配植の考え方が地域に広まり、根ざしていくためにも、今後とも皆様のご理解とご協力をお願い致します。

### ・事務局担当変更のお知らせ

9月から事務局担当となりました、岩沢朋美と申します。慣れない編集作業に戸惑いながらも、何とかニュースレター第5号を発行することができました。今後さらに充実したページを作るために、ご意見、ご要望をお待ちしています。その他、自然配植技術協会へのお問い合わせ、入会申し込みにつきましても、事務局までお願い致します。

# 自然配植技術協会第4回定時総会 議事録

開催場所：中部山岳国立公園 飛騨・北アルプス 自然文化センター

開催日時：平成16年7月9日 午後14:30～17:00

総正会員数：136名

出席正会員数：93名（本人出席45名 委任状出席48名）

## 平成15年度事業報告

- ・ 自然配植緑化技術研究
- ・ 地域性苗木生産者育成支援
- ・ 自然配植技能者養成講座開催（九州 2003.1～2004.1）
- ・ 自然配植の提案、設計支援
- ・ 自然配植技能者養成講座受講証明書の発行
- ・ テキスト発行準備  
進捗しなかった
- ・ 協会認定資格制度の準備可否  
進捗しなかった。
- ・ 会員専用のメーリングリストの開設、運営
- ・ メーリングリストによるネットワークの拡大  
2004.7現在 280名（約300名）
- ・ ニュースレターの発行（11月、4月）
- ・ ホームページの開設、運営（11月）

## 平成16年度事業計画

- ・ 協会組織のブロック化
- ・ 自然配植緑化技術研究
- ・ 地域性苗木生産者育成支援
- ・ 地域専門家グループの緑づくり、計画・自然再生事業計画支援
- ・ 自然配植技能者養成講座開催
- ・ 自然配植の普及、提案
- ・ 自然配植緑化技術交流会
- ・ ホームページの充実
- ・ ニュースレターの発行
- ・ 技術資料、テキストの書籍出版準備
- ・ 資格認証制度への準備

## 平成15年度収支報告

### 【収入】

	実績(円)	予算(円)
前年度繰越	909,531	909,531
入会金 団体会員	240,000	450,000
個人会員	90,000	250,000
年会費 団体会員	1,000,000	1,000,000
個人会員	323,000	500,000
その他収入	16,012	50,000
<b>合計</b>	<b>2,578,543</b>	<b>3,159,531</b>

雑収入には利息 寄付を含む。

### 【支出】

	実績(円)	予算(円)
事務局人件費	612,800	900,000
研究調査費	50,000	200,000
印刷費	82,177	100,000
通信費	180,496	250,000
テキスト発行準備諸経費	0	300,000
会議費	112,995	150,000
雑費	205,738	300,000
セミナー開催援助金	0	250,000
予備費(繰越金)	1,334,337	709,531
<b>合計</b>	<b>2,578,543</b>	<b>3,159,531</b>

通信費には、郵便、電話料金、ホームページ管理費を含む  
雑費には、交通費、事務用品費、備品費、その他雑費を含む

## 平成16年度収支計画

### 【収入】

	予算(円)
前年度繰越	1,334,337
入会金 団体会員	150,000
個人会員	100,000
年会費 団体会員	1,100,000
個人会員	420,000
その他収入	0
<b>合計</b>	<b>3,104,337</b>

(5団体)  
(20人)

(55団体)  
(84人)

### 【支出】

	予算(円)
事務局人件費	800,000
研究調査費	200,000
印刷費	180,000
通信費	200,000
テキスト発行準備諸経費	0
会議費	100,000
雑費	100,000
備品費	100,000
支部交流会援助金	210,000
予備費(繰越金)	1,214,337
<b>合計</b>	<b>3,104,337</b>